


2020年度 一般入試② 問題 (社会)

 問題 次の文章をよく読み、あとの問いに答えなさい。

みなさんは、小学生のときに、四大公害病のことを学んできましたね。いずれも高度経済成長期に大きな社会問題となり、裁判で公害を発生させた「企業」の責任が厳しく問われたことなどを学んだのではないのでしょうか。一般に、企業は「①お金もうけ（利益）を目的とする組織」と考えられていますが、こうした事例からもわかるように、決して利益を目的とするだけの存在であってはなりません。企業といえども、社会の一員ですので、利益をあげつつも、その活動が社会に暮らす人々の生活環境を壊さないように配慮する「社会的責任」を持っているのです。これらが日本において意識され始めたのは、最近のことではありません。例えば、明治時代の「②足尾鉍毒事件」や「別子煙害問題」などは、日本の公害史の始まりともいわれています。これらの事件・問題を通じて、日本には企業とその社会的責任について、非常に長い間向き合ってきた歴史があるのです。ここでは別子煙害問題を例に、煙害を起こした「住友」という企業がどのように社会的責任に向き合ってきたのかを、見ていくことにしましょう。

住友は、江戸時代から現在の愛媛県新居浜市で、別子銅山を開発し、③銅の生産を行ってきました。銅を生産するということは、鉍山から「銅鉍石」を掘り出すことだけを意味しているわけではありません。なぜなら、掘り出されたままの銅鉍石には、多くの不純物が含まれていて、それらを取り除き、金属として使える形にする作業が必要だからです。この作業を「製錬」と呼びます。そのため、住友は別子銅山で銅鉍石を掘り出すだけでなく、製錬も行い、銅を生産してきたのです。そして、明治時代には、西洋式の技術を取り入れた結果、次々と新しい銅鉍脈が見つかるようになり、掘り出される銅鉍石の量も、足尾銅山に次いで国内2番目となり、急激に増加していきました。

ところがこの銅生産には、多くの問題がありました。銅鉍山の経営には多くの木材が必要で、明治初期には別子銅山の一部がはげ山となるなど、森林破壊が起こっていました。例えば、鉍山内の通路である④「坑道」を作るための木材が必要で、鉍山⑤労働者の家屋などにも木材が必要でした。また、家庭の燃料の薪や炭も必要でした。それらのすべては別子銅山の周囲の山林から切り出されていたのです。加えて、銅を製錬する過程で出る煙には、有害な亜硫酸ガスが含まれていました。それは製錬所付近の⑥田畑を汚染する煙害を引き起こし、地元住民は困り、怒りをあらわにする人もいました。

そこで、こうした問題の解決のために住友本社から派遣されたのが伊庭貞剛です。すでに住友が別子銅山関連の事業で、地元の労働者を多く雇っていたので、伊庭は、住友が新居浜を離れると住民の働き口がなくなってしまうことも想定し、新居浜での事業を継続しつつ、これらの問題に取り組むことにしました。煙害問題に関しては、すぐに被害を減らすには、煙害の発生源である製錬所を移転させるしかありません。伊庭は最初、新居浜の市街地から離れた別子銅山の周辺に移転させることを検討しました。しかし、⑦長期的な視点に立ったうえで、わざわざ無人島である四阪島を開発させ、1905年に《写真1》のように製錬所を移転させました。さらに、そこへ毎日従業員や必要となる水・物資を運ぶ船を運航させるようにしました。森林破壊に関しては、植林活動を継続的に実施していくことにしました。そして伊庭は、こうした経験から、現在の「企業の社会的責任」という考え方につながるような会社の方針を文書にして掲げました。

鈴木馬左也が伊庭のあとを継ぐと、さらに銅製錬での煙害を完全になくすことが目指されました。鈴木は煙害に対する賠償金を払ったとしても、住友が事業を行ううえで有害な煙を出し続けることは、根本的に会社の方針に反することだと考えました。そこで、鈴木は煙から有害物質を取り除く⑧技術開発に力を入れるべきと主張しました。そして、実際にそうした技術が発明され、有害物質を取り除く中で、化学肥料の原料となる物質が副産物として出されるようになりました。新たな設備費用を考えると、この副産物を他の会社に売った方が利益が出ることも見込まれましたが、鈴木は住友の会社の方針の通り、自社で化学肥料を製造することを決めました。1915年に住友肥料製造所は新居浜の沿岸部で操業を開始し、2年後には全国生産量の8%がこの工場から供給されるようになりました。

その後、住友は新居浜を拠点に発展を続け、林業事業と肥料製造事業はそれぞれ、現在の住友林業と住友化学という会社が引き継いでいます。公害を引き起こしてきた歴史から生み出された、⑨住友の会社の方針は、「企業の社会的責任」のあり方を考えていくうえで、1つのヒントを与えてくれる事例かもしれません。一方で、「企業の社会的責任」のかたちは様々で、ほかにも、企業が利益の一部を使い、イベントを企画し、そこに人々を無料で招待したり、法律を厳正に守ったりすることなども、そのかたちの1つといえます。このように、持続可能な社会を求める現代では、社会を構成する様々な団体や会社、機関、そして私たち一人一人の行いが、世の中にどう影響するか視野に入れて行動すべきなのかもしれませんね。

《写真1》明治時代の四阪島製錬所

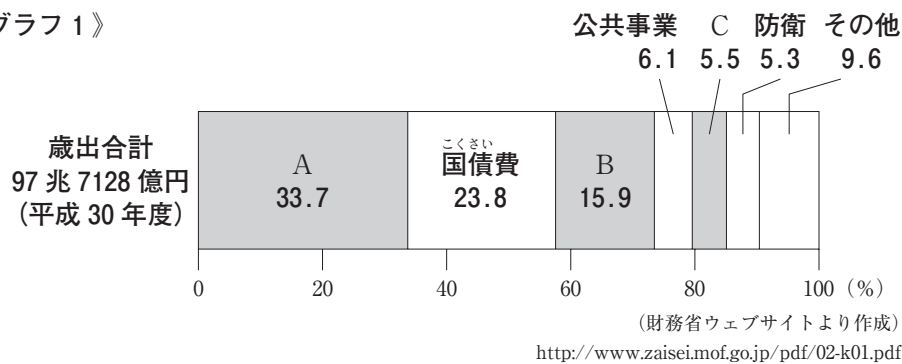


(住友金属鉍山ウェブサイトより)

https://www.smm.co.jp/csr/activity_highlights/environment/highlights5.html

問1. 下線部①について、次の《グラフ1》は平成30年度の日本の国家予算の歳出を示したものです。《グラフ1》のA～Cにあてはまるものの組み合わせとして正しいものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

《グラフ1》

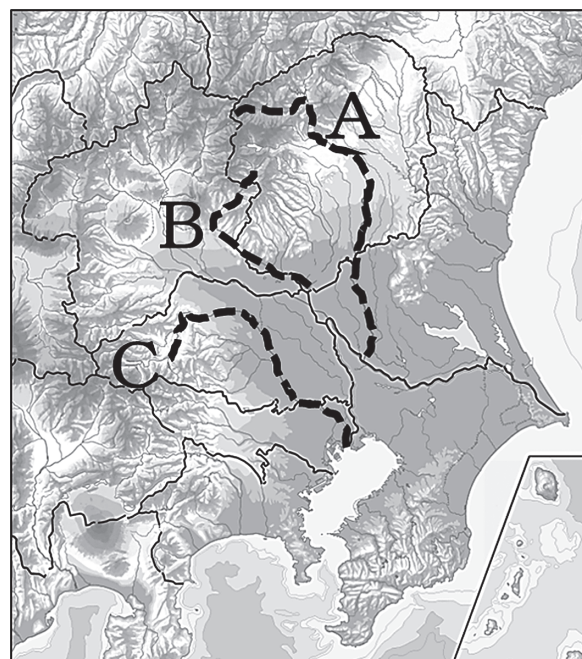


	A	B	C
ア	地方財政の援助 <small>えんじょ</small>	社会保障	教育と文化・科学の振興 <small>しんこう</small>
イ	地方財政の援助	教育と文化・科学の振興	社会保障
ウ	社会保障	教育と文化・科学の振興	地方財政の援助
エ	社会保障	地方財政の援助	教育と文化・科学の振興

問2. 下線部②から出た鉱毒が主に流れた河川の名 称 と、その場所を示した《地図》中の記号A～Cの組み合わせとして正しいものを、次のア～カから1つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 渡良瀬川—A イ. 渡良瀬川—B ウ. 鬼怒川—C
エ. 鬼怒川—A オ. 荒川—B カ. 荒川—C

《地図》

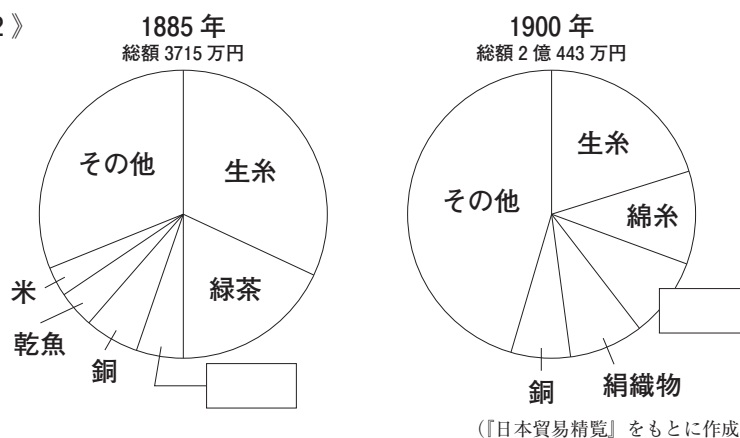


(「デジタル地図帳 Ninomap」をもとに作成)

問3. 下線部③について、以下の問いに答えなさい。

(1) 次の《グラフ2》は銅を含む1885年と1900年の輸出品の内訳ですが、空欄には同じ輸出品が入ります。この輸出品を次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

《グラフ2》



- ア. 砂糖 イ. 綿花 ウ. 鉄類 エ. 石炭

(2) 奈良時代に、現在の埼玉県秩父市付近で銅が発見され、朝廷に納められました。奈良時代の租税制度について述べた文のうち、正しいものを次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

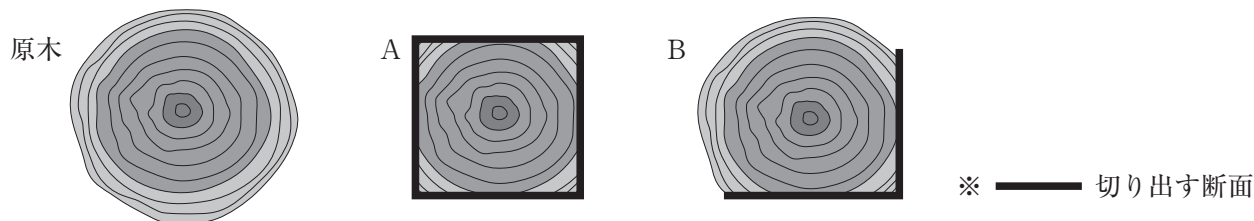
- ア. 特産物を都まで運ぶことも義務であった。
- イ. 防人は都の防衛を行う兵役であった。
- ウ. 庸は地方で10日間の労働か布を納める税であった。
- エ. 租は稲を都に納める税であった。

(3) 青銅器に関する文のうち、誤っているものを次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 米作りや鉄器が伝わったのと同じ時期に青銅器も中国大陸や朝鮮半島から伝来した。
- イ. 銅鐸は祭りのときに使用された道具と考えられている。
- ウ. 「ワカタケル大王」の名が刻まれた銅剣がさきたま古墳群から発見された。
- エ. 古墳の石棺の中から副葬品として銅鏡が発掘されている。

問4. 下線部④について、別子では用材不足が目立つ中で、木材の使い方も見直しがなされました。例えば明治20～30年頃からは坑道を補強する柾木の切り出し方が工夫されています。工夫された（明治時代になって導入された）柾木の切り出し方は《資料1》のA、Bのどちらと考えられるでしょうか。解答欄のA、Bどちらかに○をつけ、解答欄の文に続く形で、その理由を簡単に説明しなさい。

《資料1》柾木の切り出し方（断面図の木材はすべて同じで、同縮尺のもの）



問5. 下線部⑤について、内閣には労働についての仕事を担当している「省」があります。この「省」が担当する仕事を、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 国民の健康に関する仕事
- イ. 経済や産業に関する仕事
- ウ. 地方自治に関する仕事
- エ. 消費者の権利に関する仕事

問6. 下線部⑥について、下の《写真2》のように田畑の形を改良することを何といいますか。4文字で答えなさい。

《写真2》



1976年



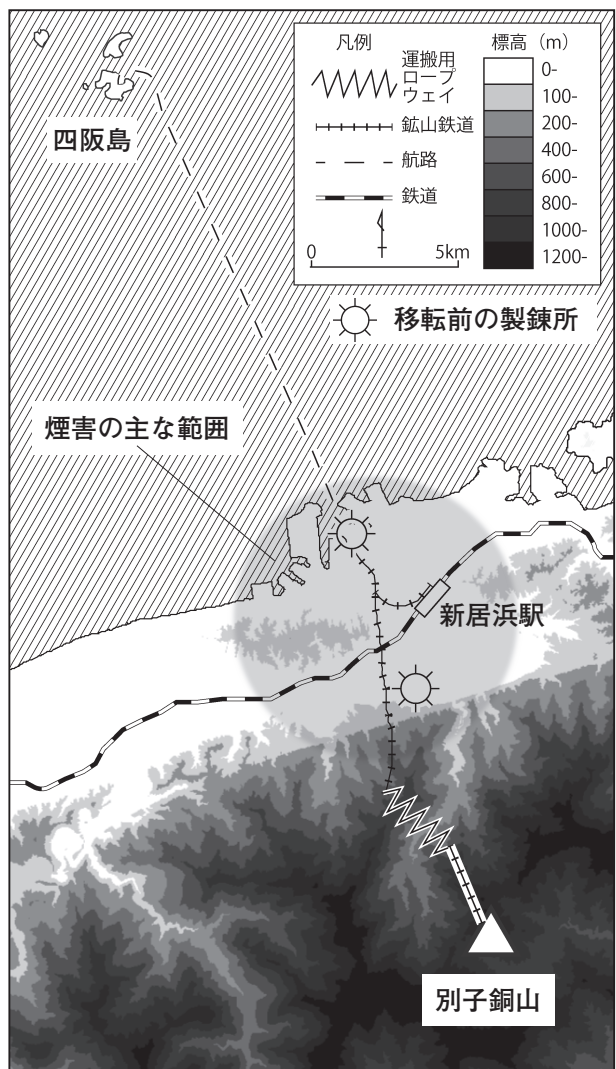
2013年

(これらの航空写真は、ほぼ同じ範囲を撮影したものです。)

(航空写真は「地理院タイル」による)

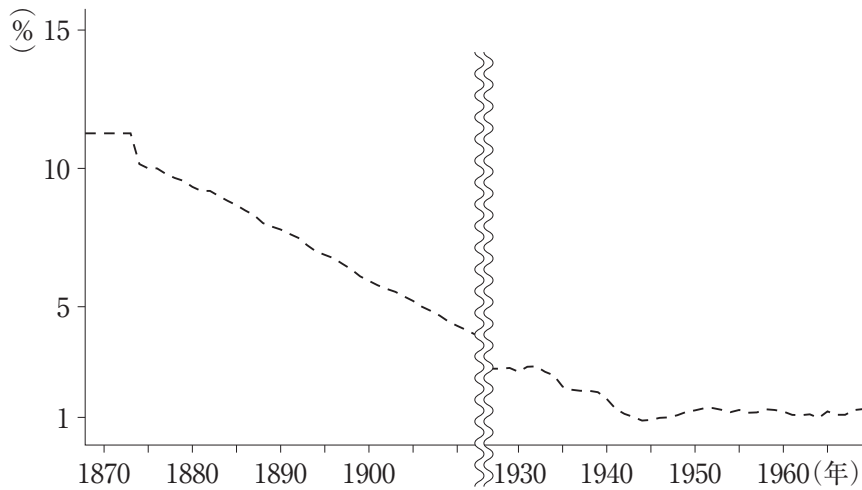
問7. 下線部⑦について、伊庭が四阪島を移転先を選んだ理由を、本文と《資料2》～《資料4》を参考に、160字以内で説明しなさい。その際、伊庭が長期的な視点に立って予想したことを明らかにしたうえで、別子銅山と四阪島の立地条件を比較しながら述べること。

《資料2》銅製錬所の移転先と当時の交通網



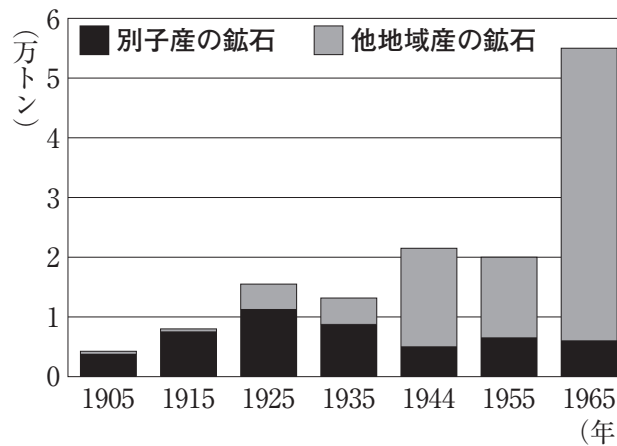
(地理院地図の「標高タイル」と『住友別子銅山史上巻』をもとに作成)

《資料3》別子銅山産出の銅鉱石から取り出される銅の割合



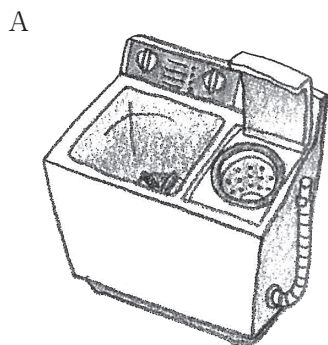
(『住友金属銅山20年史』より作成)

《資料4》四阪島製錬所で製錬した銅鉱石の産地の変化

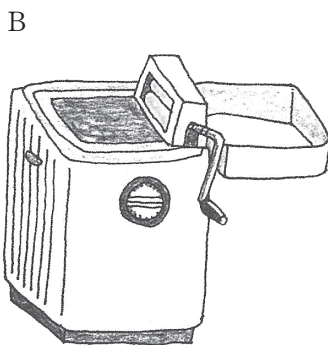


(『住友別子銅山史別巻』より作成)

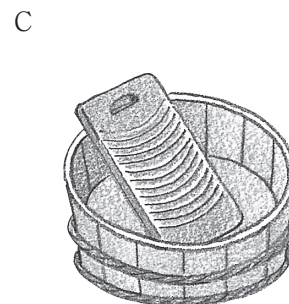
問8. 下線部⑧について、技術開発によって、私たちの暮らしは大きく変わってきました。例えば、洗濯の道具や機械の開発によって、洗濯の方法は大きく変化しています。以下のA～Cの洗濯に関する道具や機械を古いものから順番にならべかえた時、2番目に開発されたものを記号で答えなさい。また、これらを説明した次のア～ウの文のうち、正しいものをすべて選び、記号で答えなさい。なお、正しいものがない場合は解答欄に×を書くこと。



(日本文教出版『小学社会3・4上』より)



(教育出版『小学社会3・4上』より)

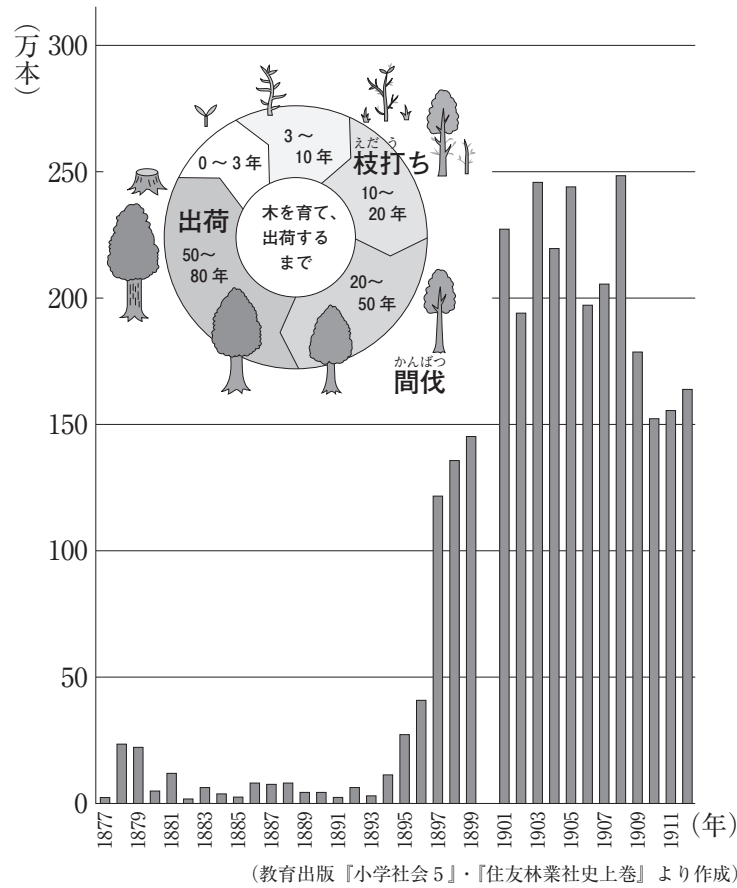


(東京書籍『新しい社会3・4上』より)

- ア. Aは2槽式になっており、洗濯する衣類の素材によって2つを使い分けていた。
- イ. Bについているハンドルとローラーを回すことで、洗濯機の回す力や洗濯の種類を調整した。
- ウ. Cは汚れを確かめて洗うので、無駄な水を使いにくい。

問9. 下線部⑨について、住友の会社の方針とはどのようなものだったのでしょうか。本文と《資料5》～《資料8》から、植林事業と肥料製造事業が「住友の利益」と「地域への社会貢献」のそれぞれにどのような役割を果たしたのかを具体的に指摘したうえで、2つの事業に代表される住友の会社の方針を190字以内で答えなさい。

《資料5》木を育て、出荷するまでの流れと別子銅山付近における植林本数の推移



《資料6》肥料価格の推移

		1917年	1923年	1929年
肥料の種類	大豆かす	2.79	2.32	2.37
	化学肥料	1.87	1.85	1.37

(円) (『東京深川市場月別平均高値市況』より)

《資料7》別子大水害について

1899 (明治 32) 年に別子大水害が発生した。この水害は、銅鉦山の坑道入口周辺の集中豪雨と風速 33 m の暴風が襲ったことで土石流が発生し、鉦山労働者やその家族など 513 人の死者を出した大惨事であった。製錬設備や社宅など住友が整備した施設は壊滅的な被害を受けた。また、下流にも被害が出た。

(『住友林業社史上巻』をもとに、やさしく書き改めました)

《資料8》愛媛県における肥料利用について

第一次世界大戦後に化学肥料が普及した。化学肥料は効力が著しいため争って購入された。特に大正 8、9 年では、化学肥料は普及し始めたばかりで流通量が少なく、天然肥料に頼るしかない農家も多かった。しかし、昭和以降は量産によって化学肥料も普及した。愛媛県は肥料の大量移入県であった。

(『愛媛県史』をもとに、やさしく書き改めました)

2020年度 一般入試② 解答用紙 (社会)

問1.

問2.

問3. (1)

(2)

(3)

問4. A ·

が新たに導入された切り出し方であり、

問5.

問6.

(または) ほ場整備

問7. 将来、別子銅山から産出される銅鉱石の質が悪くなった際に、別子銅山周辺は、海から何度も積み替えが必要で交通の便が悪いが、四阪島は、船で直接外部から原材料や製品の出入荷ができる。銅採掘業が衰退しても、四阪島で他地域産の銅を製錬することによって、新居浜での事業を継続して行え、煙害の発生源を市街地から遠ざけることができるから。

100
160

- A A
- B B
- C C
- D D
- E E

問8. 2番目 記号

問9. 植林事業は間伐材や用材を出荷することで利益が得られ、土砂災害の危険を減らし、鉱山や新居浜市の安全を確保する目的があった。また、肥料製造事業は、普及し始めた効力の高い肥料を量産して販売し利益を出し、値上がりする天然肥料よりも安価な化学肥料を製造し、農家の経済的負担を減らす目的があった。これらは、長期的に会社の利益を上げながら、事業を通じて社会貢献をするという経営理念を代表する。

100

- A A
- B B
- C C
- D D

190

受験番号		氏名	
------	--	----	--